

昨年度の授業改善プランの検証

- ・3年生は課題を期限前に自主的に提出する生徒が増えた。
- ・習熟度の差に出来る限り対応した授業を行い、個別に丁寧な対応をしている。テストを単元ごとに実施し、知識や技能の定着を図っている。単元の振り返りを学習に活かすことが課題。より自主的に学習できるようにつなげたい。

今年度の学力調査について

分 析	【観点別に関して】校内平均と目標値の差を示している。 〔1学年〕 <全体>+0.4ポイント、<知・技>−0.5ポイント、<思・判・表>+2.6ポイント 〔2学年〕 <全体>−4.4ポイント、<知・技>−4.1ポイント、<思・判・表>−5.1ポイント 〔3学年〕 <全体>−6.3ポイント、<知・技>−7.5ポイント、<思・判・表>−4.0ポイント 【基礎・活用に関して】校内平均と目標値の差を示している。 〔1学年〕 <基礎>+0.5ポイント、<活用>+0.3ポイント、知識や基本計算力に課題。 〔2学年〕 <基礎>−4.3ポイント、<活用>−4.8ポイント、領域全体的な基礎の定着に課題。 〔3学年〕 <基礎>−7.9ポイント、<活用>−3.0ポイント、領域全体的な基礎の定着に課題。 <主体的に学習に取り組む態度> 多くの生徒が課題を提出できるだけの取り組みをしている。しかし、学習した分が身につけている生徒は多くはない。課題で出された部分の問題集をやることが勉強と思っている生徒が多い印象だが、全体的に数学を理解しようと努力する姿勢は見受けられる。 <思考・判断・表現> 校内平均正答率は全学年ともに目標値より下回っている。自力で考えようという姿勢はみられるが、既習事項を活用して考えることが十分できていない。 <知識・技能> 校内平均正答率は全学年ともに目標値より下回っている。授業を理解しようとする姿勢はあるが、演習量が少なく、定着しきれていない。家庭での学習が少ないことも課題。
課 題	<主体的に学習に取り組む態度> 算数・数学に対する苦手意識が根強く残っており、自学自習が習慣化していない。個々の勉強の仕方を確立させることと家庭学習を定着させることが課題である。 <思考・判断・表現> 問題から必要な情報を読み取ったり整理したりする力、問題を解決する方法を考える力が十分身に付いていない。論理的思考力を育てることが課題である。 <知識・技能> 単純な計算ミスが減らすなど、より正確な表現・処理ができるようにしていきたい。特に数と式の計算、図形の内容を復習する必要がある。知識の定着のために、繰り返し学習することが不足している。
授 業 改 善 の ポ イ ン ト	<主体的に学習に取り組む態度> 課題や宿題を点検・評価することにより自ら学んでいく姿勢と意欲を育てる。ノート、プリント、問題集などを定期的に点検・評価することで学習意欲の向上に取り組む。 授業での課題の提示の仕方を工夫し、基礎の確認を重視しながら、学習内容に興味をもって取り組む姿勢を育てる。 <思考・判断・表現> 課題や発問を工夫し、考えさせる授業を行う。レポートやグループワークなどにより、課題解決の過程を重視した指導を行って、考える力を伸ばしていく。 <知識・技能> 思考力を伸ばすことが課題ではあるが、数学の知識や基本的な計算技能が身につけていない。基礎・基本の定着を目指し、反復練習する場を増やす。少しずつできることを増やしていき、定期考査や単元テストで結果を出すことで、自己肯定感を促して学習意欲の向上を目指していく。